

哥合

文永二年



年合

文永二年八月十五日

題

未月

初月

停月

漸傾月

欲八月

作者

左方

女房

前白左大臣

前白大臣

大納言藤原朝良

中宮大夫藤原朝雅

前用白左大臣

右大臣

兵部卿藤原朝隆

權大納言源朝通

中納言藤原朝武

左兵衛督藤原朝高

右兵衛督藤原朝高

左近衛權中將藤原朝隆

右近衛權中將藤原朝隆

左大弁源朝雅

右大弁源朝雅

右方

執覺

式部卿院御連

小宰相

右近衛權中將藤原朝隆

右近衛權中將藤原朝隆

權中納言藤原朝隆

權中納言藤原朝隆

右兵衛督藤原朝隆

右兵衛督藤原朝隆

鷹司院師

真觀

左近衛權中將藤原朝隆

左近衛權中將藤原朝隆

辨師

讀師

判者

衆議

衆議

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

大僧正

一番

未お月

左

勝

女房

とて

おほなれおほなれのこゝろみみして凡そ月結かきあはる

右

軸貫

とらふきよふよひのわそよほふるひはわ月よまほはあひの結を

左右尋よくくしてのちあ方ん存ぞ一あきりし

作あわち方申ふた奇題の心詞れおもむき社

妙之を難と世登くも申くた方やまをまを要

候まもにいふ集れあもくもはもあふよあひ

しつわもて更よ見しおゆるあも申てをら

為勝く由一回定や

三番

行運日付

左 勝

前用日左大占

村をにうろふ様みへるまは山原まへくる林の森  
右 おおた改大占

くれぬもてまへくるかの山のたに光をさるも好の好  
右方左無指部〜山〜右方多々  
元れ山のまやそ〜たにゆるくと申出侍は  
松勝〜より〜被侍る

三番

とこ

用日左大占

うしは〜はよ丸く〜神のふり〜月〜  
右 勝  
式見門院御連

まは〜の〜おれ〜おれ〜おれ〜

左 年〜ま〜む〜は〜  
い〜と〜右〜と右〜下〜  
ま〜り〜右〜勝

四番

左 拵

右大占

まは〜の〜お〜の山〜ある〜月〜

右

中納言

月〜ま〜し〜く〜ま〜る〜ま〜は〜あ〜あ〜  
た〜と〜い〜る〜ま〜り〜た〜の〜方〜申〜侍〜  
右〜ま〜り〜く〜し〜ら〜は〜ま〜す〜あ〜つ〜女〜房〜の〜ま〜  
ま〜く〜優〜き〜林〜持〜た〜の〜ま〜り〜

五番

左

前内大臣

こよひのしるしをたてしむるにあらざらん

右

小宰相

くろくろのしるしをたてしむるにあらざらん

六番

左

共々藤原朝下隆親

右

権大納言藤原朝下資季

久方此にあらざらん

より申人の侍する者下月

七番

左

大納言藤原朝下良教

右

左近衛権中納言藤原朝下

里人のおむすをさしむるにあらざらん

八番

左

権大納言藤原朝下通成

あやむしをたてしむるにあらざらん

右

右近衛左大臣藤原朝通雅  
まは後醍醐天皇の御代に  
右近衛左大臣藤原朝通雅  
よめてたつか後醍醐天皇の御代に

九番

右

中宮左大臣藤原朝通雅  
そや〜ぬらるるの御代に  
中宮左大臣藤原朝通雅  
はちつていよいよおつた  
右近衛左大臣藤原朝通雅  
いふまじありあつた月には  
よ〜〜〜

十番

右

中知を藤原朝通雅氏  
いふまじありあつた月には  
右

左の奇うきことや〜

新古今此

可ぬれうとま〜

又

右

十一番

右

右近衛左大臣藤原朝通雅  
た共左近衛藤原朝通雅  
た〜〜





十八番

右

左大井原羽下雅言

右

左近衛権中將兼忠继

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

左近衛権中將兼忠继

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

十九番

右

左近衛権中將兼忠继

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

右

左近衛権中將兼忠继

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

とまふたぬ方一色一色仍日前

十七番

右

具氏羽下

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

右

隆将

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

左近衛権中將兼忠继

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

十八番

右

雅言羽下

やまのれいさうこそちねあまのけのあはれはのこあはれをいれなほ

右

忠继羽下





左

良教

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま

右

隆親

たらのらふまといふまといふまといふまといふまといふま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

亦七番

左

隆親

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

亦七番

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

亦七番

左

前田

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

亦七番

右

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

亦七番

左

亦七番

さういふほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
はらうのほつ月とやうにさういふ山はあつたはまのりやま  
みよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう



右

和号

はるよわ月になきるまみと山をくさる林のまらえ  
たのよのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
くたのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
まのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
まのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも

二十四番

停牛月

右

和号

久しれえい月たかまはし林のなるはひりあま  
右 融雪

はるのほつたのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
秋のちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも

ものちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
うもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
たのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも

二十四番

右

和号

久しれえい月たかまはし林のなるはひりあま  
右 融雪

はるのほつたのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
秋のちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも

二十四番

右

和号

はるのほつたのちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも  
秋のちもたみんたのよのちもたみんたのよのちも











此のよきときまゝなる秋のよき月をばはるかに  
古月を月見つとちうと西教あるとま  
やちうと人坊たをせるもつと勝伝也

四十九番

御前月

たか

吳氏朝ト

かりつとれはほむかしくはえすまておぬらばれ  
隆情

わしとまよまよふれはまのひてまことあつと月後

中

空すもてはうひやこきとわらまのたのつち  
勝も中枝つとまも存すの心相まきもえ伝也

五十番

たか

雅言朝ト

木のこころ月を為にそまにけるはくくつと詠せおに

中

心建朝ト

更おまはいつとまこのありはよ月飲るも風を約れ

右す月飲るはせとつとままきこぬつとま

りしははれらるもつとま坊りたす本はく

とらまふせまにおれは月見もてたもまこ

五十一番

たか

新方朝ト

月をやあすこくまはあまの福をま物新見也

中

真心親

光られば方のひまはあまのまはつとま林のあれ

あらまのあまのまはつとまはつとまあはつとま



五十七番

左 勝

為氏

夕のまくにまゆのねのねとる月のあはれ新花うら

右

兼為

さよの中やまのうらささしむれぬむしりまらむの秋

ちぎらむねはせしむらありては後侍也

五十八番

左 勝

雅らて

ゆくまを初をささけ秋のよれはあももあにさるれ

右

也雅ら

夕のまくにねむしむらあまのうらささしむらむの月やね

たふあれむらあまのうらささしむらむの月やね

五十七番

左 勝

通ぬ

夕のまくにねむしむらあまのうらささしむらむの月やね

右

通雅御

やさし秋はこし秋のよれあまのうらささしむらむの月やね

たふあれむらあまのうらささしむらむの月やね

すしむらあまのうらささしむらむの月やね

五十八番

左

良教

夕のまくにねむしむらあまのうらささしむらむの月やね

右 勝

ら雅ら

夕のまくにねむしむらあまのうらささしむらむの月やね

たよりるいともて以右方儀

二十四番

左 勝

隆親知

このあふともおのつよあくるは福ぬれは月もあにぞ

右

資季よ

およひて今もまはあつまの物忘れぬはあにぞ

あもさねつらもろくはくはくももた老に優せ

死すして為勝

六十番

前田美長

月夜も<sup>お</sup>たの氣のそよひをせつとれえにせしん

右

小亭お

たよりあそやうりもいぢりまに氣そは月もたは

題乃くくろは道も不ふめくは生た右方

こつてて方儀

六十一番

左

右天下

たよりあそやうりもいぢりまに氣そは月もたは

右 勝

中納言

いもくも月も年日や屋しこは年福事の物あにぞ

左并後系極折返の題の奇よいんをたう

せつとよしと位侍從して右勝

六十二番

左 勝

用白

帰らむらもれねるそはあにぞたは月もたは







とよいふらんやとそえん侍  
六十九番

友 祐 赤田丸

わしははるきよまきあふとよとまきふまきふまきふまき

右 小亭丸

しるる光とつらむらふまきふまきふまきふまき

七十番

友 祐 隆親

秋の月さくらけきののとしのしるる光とつらむらふまき  
わしははるきよまきあふとよとまきふまきふまきふまき

たよるきとれと右又、神とおいれまふとつらむらふまき  
てか祐

七十一番

友 祐 良教

わしははるきよまきあふとよとまきふまきふまきふまき  
右 雄丸

秋のさくらひわそまきあふとよとまきふまきふまきふまき  
右とらふまきあふとよとまきふまきふまきふまき

七十二番

友 祐 通成

わしははるきよまきあふとよとまきふまきふまきふまき  
右 祐 菊丸



ら勝らん

七十九番

左

谷平

右勝

実作

もはのうこやと使えまじらぬはのうたに印さす  
あつまあしひきも物さふのにまじらぬはれ中よ月乳  
はこらうしんあゆまきほも中さるるまはんかう  
よまじらゆより一信ありてはたかき  
ち中七番

右勝

新平

しきとの様あふのまじらぬはのうたに印さす  
右勝 師

とまじらぬはれはれきうらりきしりきし新おも

まそ又豆石の有勝及ぬか持

七十九番

左

りか

あつらうらりきしりきし新おも

右勝

ま親

よれにみるまはれけあはぬあぬやまれし  
たつとにやう本弁のこの融えん  
伝右勝

七十九番

右勝

雅

秋のよれはのらあるほつたむにきふ月れけえ



仙洞奇合

乾之二年四月廿九日

題

春風

夏雨

秋露

冬雪

恋夕

作者

左

女房

前權中納言平朝下統親

從二位藤原朝下忠行

散位藤原朝下為相

右近衛權中納言藤原朝下俊兼

右

前權中納言藤原朝下為兼

左近衛權中納言藤原朝下統親

永福門院內侍

左近衛權中納言藤原朝下俊兼

新宰相

從一位藤原朝下教良女

藤原大納言典侍

近政門院新大納言

永福院小兵衛督

永福門院中將

前權大納言藤原朝下家雅

入道前大政大臣

從三位源親子

前權中納言藤原朝下俊光

九條左大臣女

已心院師教公

講師

讀評

判者

衆議

隱作者各心判之  
亦中納言為兼之後日去判詞



院よりんて侍りしは似たるも誠はたか  
かろふもたぬに中侍くはたか勝  
中書

左

散位藤原印下為相

とよめるまは花梅の枝とよみのこといほまきき  
右

右

左近衛中侍兼朝臣

明くもる家のもちほのほにそ朝の梅に花あそひ  
を弄むよろし左近衛のよ枝とよみ  
しうふ時このよし相おと申くもあ  
山のまらうとを弄むさうしを対ふあこを  
而右近衛情をさうとあより侍く右近衛  
又中書

左

右近衛権中侍兼朝臣俊通

かもしを花梅は吸きとて花もも春を言流

右

新事わ

とよめるまは花梅の枝とよみのこといほまきき  
春のさよめをさうとあより侍く右近衛  
中侍兼朝臣俊通  
ほまききとよめるまは花梅の枝とよみ  
とよめるまは花梅の枝とよみのこといほまきき  
とよめるまは花梅の枝とよみのこといほまきき

左

左

左近衛中侍兼朝臣

そまわらぬ家のさうとあより侍く右近衛

右 勝

新権大納言兼宗朝家親  
かみくちあつゝ敷の下のすゝ花子花の若くは若者の多乳  
友をまわつてつとて来白うらつれをさしてすくすく奇合  
みえつ保くくゆかおお下やうめ右力勝

七変

左 勝

藤大納言兼侍  
梢よりよきなる花はひさきたるに平わたる若れ夕の柳  
入道前右政方下

右

よほふよきあひんねんたうんともさちさあきあはれ  
友をむろくこし無下り一各下りく右心あり  
てどよよかほひはひんあひんあひんあひんあひん  
いむわんあひんあひんあひんあひんあひん甲人侍勝

八番

左 勝

延政門院新大納言

るるるるらののれのはいそと梅この待もる神ふるまむ  
右 延三位源親子

花よ吹梅よるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
あさ可いあひんあひんあひんあひんあひんあひんあひん  
わらうほしあひんあひんあひんあひんあひんあひんあひん

九中巻

左 勝

礼福門院小兵庫の若

級あまきなほれ柳よわらうあまき丸るいんあまきあまき  
右 小兵庫の若



さうひらるもれ白ひとのさうそて熱にゆきまきれ  
あそこよりりーまはあもそてかた

十妻

九

永福院中

よやうに暖わいらしきまこれ柳よまきまきあせ

右

九條左下女

なうて世いあもまきまきあまはのあはる

さうあかの柳あらうそまおーく優さうい

右

十妻

九

女

なうりそあまれ情のまきまきあまはのあはる

右

為美

煉ちるあまれ情のまきまきあまはのあはる

庭のちもあまれ情のまきまきあまはのあはる

流るまもあまれ情のまきまきあまはのあはる

右

十二妻

九

親

あつあまれ情のまきまきあまはのあはる

右

家雅

ゆきまきあまれ情のまきまきあまはのあはる

ねあまれのころあまれ情のまきまきあまはのあはる

たとの白あまれ情のまきまきあまはのあはる



しんまゝのうらなひにけりてはむしる夕立のなれば湯井の湯  
た

家牒と

さるのしはるれをいへばむしるのふらふりあれきを  
構へある又月あのをまらおほははるまきしと名  
侍しうたとよるうきとさうと侍し侍侍の事

十七番

た 藤大綱と曲侍

うちさるしむれのをなまよあきとくあるれあさけの巻に録  
た 入るた改た下

りくさのまもれ村にふるそ年とせうすまき又山のい海  
た 右とたによろうとて何事とくはなるとく右  
た 中侍とまよのいせむしるふるそ縁とくまき又山

十八番

た 此まきとらちとや村まきとつとやとやとてか侍  
た 新大綱とく

う月その日敷のなむしるうきとまきとあしあむしる  
右 是と侍親と

校よまきとあれははるにうてあははるる又の夕そ  
た 左和ははるふり敷とらなとあまはあれたと侍この  
た 右のうきとまきとらちとまきとあしあむしる  
うのひそおとくまきとあしあむしる侍と

十九番

た 小長巻と

りくさのまもれ村にふるそ年とせうすまき又山のい海  
た 右とたによろうとて何事とくはなるとく右  
た 中侍とまよのいせむしるふるそ縁とくまき又山

右

俊光と

うち一からあるさあつふまをれ歌原におよぶれを  
先達ののさといふもつれをうおしうおるよし  
をのくちて勝徳りま

女番

右

中右

雪うらららあめれれらるるほり原も朝のきまを  
右 九條左女長女

孫こまをまられいといしりあてらるるほりあめ  
やいこのつらみ見ああうら入道奇にあひまを  
よしあめうらあ系船トリて侍りこまもら  
のるのまらうら朝の橋あうらむ優りおし

きくちをて勝徳りま

女一番

秋落

右

中右

我がれしあまといしむしと秋風あははるるら  
右 為るる

まきひくち種のもろをほすうはるる秋れ白落  
たい初きくちうらて隔れ俗も味右奇き  
あまよひくちうらて再之ち侍りを侍り  
はくち初めのおうけられ侍りま

女二番

右

中右

はくち初めのおうけられ侍りま

右

家親御下

多し此れをさうり期あらず此れをさしむる秋の若むし  
ちし此れ葉のふれをさきうりあさうりの葉をさる  
きくさあさうりさきうりのさうりさうりあれききき  
むつりねほつりあさうりさうりさうりあれききき  
ふあまかきむしりさうりさうりあさうりあれききき  
とてちよさうりさうりさうりあれききき

右

通好

志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
右勝 日侍 右勝  
あつりさうりあれきききさうりあれききき

志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
侍と下白涕 製に似侍より若り侍て右  
右勝 右勝  
右勝

右

為相親下

秋つりさうりあれきききさうりあれききき  
右 祀春親下

志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
右勝 右勝  
志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき  
志すししむむしよれまはさうりさうりあれききき

女た

後意組下

多深くともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

右 勝

新字た

玉わらぬ海の花と月此よとのさいふるまは此意

遊くもふりともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

よき侍りま

よき侍りま

才七番

女た 勝

後意組下

とすくも此海の花と月此よとのさいふるまは此意

右

家雅と

むまの海とともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

むまの海とともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

あふまの海とともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

して勝侍りま

才七番

女た 勝

後意組下

おまの海とともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

右

入道新字改ち下

秋をまるるまはよふきて此海の花と月此よとのさいふるまは

あふまの海とともさし此海のし来たり秋をるまはよふきて

くが持

才八番

女た 持

新字組下







右 絶春朝

竹のあはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

亦七番

左 抄

後鳥羽

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

亦六番

左 抄

從一位藤原朝下女

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

凡雅 左

家雅

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

亦七番

左 抄

友大の油を典侍

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに

あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに  
あはれは春のさかえに









此亦予之別法也  
右之風情也  
左之風情也  
一白

此亦予之別法也  
右之風情也  
左之風情也  
一白

目下之物

